水稲の生育状況と今後の管理対策（第１号）

令和２年６月２日
新潟県農林水産部

〔６月１日現在の生育状況〕

◎　水稲の生育は、平年に比べ全般的に進んでいます。
◎　コシヒカリでは指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、茎数は「多い」、葉数の進みは「早い」状況で、生育が早まっています。
◎　新之助では指標値に比べ、草丈と葉数の進みは「並」、茎数は「やや多い」状況です。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

◎　５月 28 日発表の１か月予報によると、６月の平均気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されています。
◎　５月の平均気温も平年に比べ高かったことから、コシヒカリでは茎数が急激に増加し、平年よりもかなり早く中干（なかぼ）し*適期に達すると見込まれます。

*1 中干し：田の水を落として、一時的に田を乾かすこと。

〔管理対策のポイント〕

中干し・溝切り

◎　今後さらに茎の発生が旺盛になり、過剰生育が懸念されるので、田植え後 25 日を過ぎたら生育を確認し、遅れずに中干しを開始するとともに、溝切りも確実に実施しましょう。
◎　特に、連休植えのほ場や生育が過剰になりやすいほ場では、ただちに中干しを開始してください。

水管理

◎　気温の高い状況が続いていることから、地温の上昇にともない、田のワキ*の発生が多くなることが予想されます。生育が遅れ、ただちに中干しに入れないほ場では夜間落水を行い、根腐れや生育停滞を防止しましょう。

*田のワキ：稲わらなどが分解する際、ガスが発生すること。

◎　今後の管理対策発信予定日
６月 11 日・21 日、７月２日・11 日・19 日・26 日・31 日、８月 21 日、９月 11 日

〔補足資料〕

１　農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（６月１日現在）

つきあかり

○　指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「多い」、葉数の進みは「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	29 ㎝	30 ㎝	並	98%
茎数	169 本/㎡	145 本/㎡	多い	117%
葉数	6.2 葉	5.9 葉	並	+0.3 葉

注１）化学肥料栽培。田植え５月７日、栽植密度は 21.2 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　7.0kg/10a

注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ

ゆきん子舞

○　指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、茎数は「少ない」、葉数の進みは「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	32 ㎝	26 ㎝	長い	123%
茎数	137 本/㎡	180 本/㎡	少ない	76%
葉数	6.2 葉	6.0 葉	並	+0.2 葉

注１）化学肥料栽培。田植え５月１日、栽植密度は 18.6 株/㎡

注２）基肥窒素成分量 2.8kg/10a(前作枝豆)

注３）長岡市高野町の生育調査ほデータ

こしいぶき

○　指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや少」、葉数の進みは「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	23 ㎝	23 ㎝	並	100%
茎数	150 本/㎡	159 本/㎡	やや少	94%
葉数	6.0 葉	5.8 葉	並	+0.2 葉

注１）化学肥料栽培。田植え５月 11 日、栽植密度は 19.8 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　3.0kg/10a

注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ

コシヒカリ

○　指標値（生育のめやす）に比べ、草丈が「長い」、茎数が「多い」、葉数の進みが「早い」状況です。生育は平年に比べ早まっています。

項目	本年値	指標値（県平均）	指標値との比較	指標値比・差
草丈	26 ㎝	23 ㎝	長い	113%
茎数	106 本/㎡	90 本/㎡	多い	118%
葉数	5.5 葉	4.8 葉	早い	+0.7 葉

注）県内全域の 99 生育調査ほデータの平均値（田植え５月 10 日、栽植密度 16.9 株/㎡）

◎　中干しの適期は、茎数が目標穂数の７～８割を確保した時期（遅くとも田植え後 30 日）
◎　生育が過剰になりやすいほ場では、より早めの６～７割の時期（田植え後 25 日）
◎　田植え後 25 日をめどに、速やかに茎数を確認し、遅れずに中干しを開始

新　之　助

○　指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや多」、葉数の進みは「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	23 ㎝	24 ㎝	並	97%
茎数	85 本/㎡	81 本/㎡	やや多	105%
葉数	4.9 葉	4.8 葉	並	+0.1 葉

注）県内全域の 15 生育調査ほデータの平均値（田植え５月 17 日、栽植密度 16.4 株/㎡）

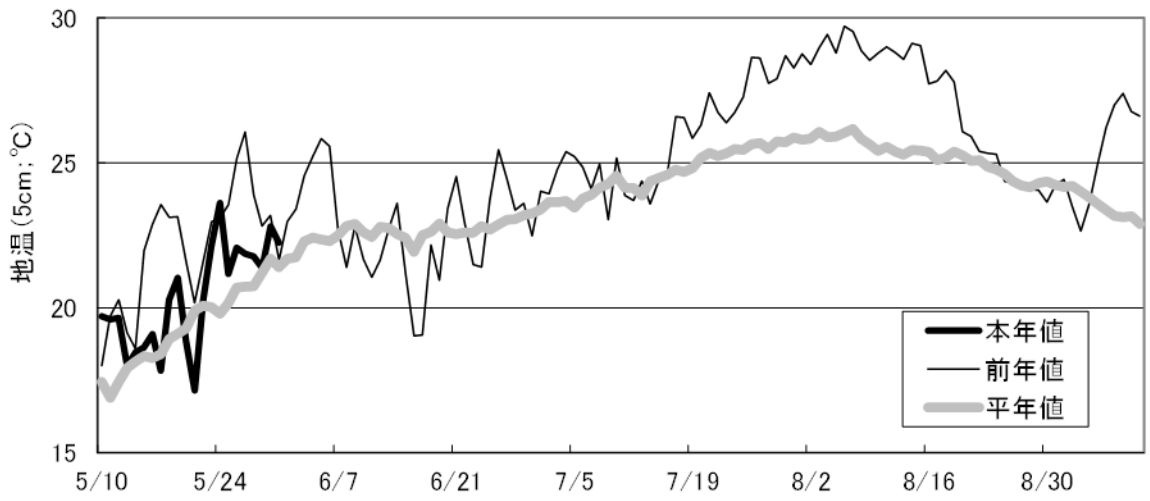
◎　いもち病の伝染源となる補植苗はただちに除去
◎　５月 20 日以降の田植えでは、気温の上昇により茎数の急増が予想されるため、分げつの発生状況に留意
◎　化成の全量基肥肥料は茎数が増加しやすいので、目標穂数の８割を確保したらただちに中干しを開始

中干し開始適期ほ場
（目標穂数の 80%の茎数）

適期を５日過ぎているほ場
（目標穂数の 120%の茎数）

２　地力窒素の発現状況

○　移植日からの日平均地温は平年差＋1.0℃で、地力窒素の発現量は平年より多い。



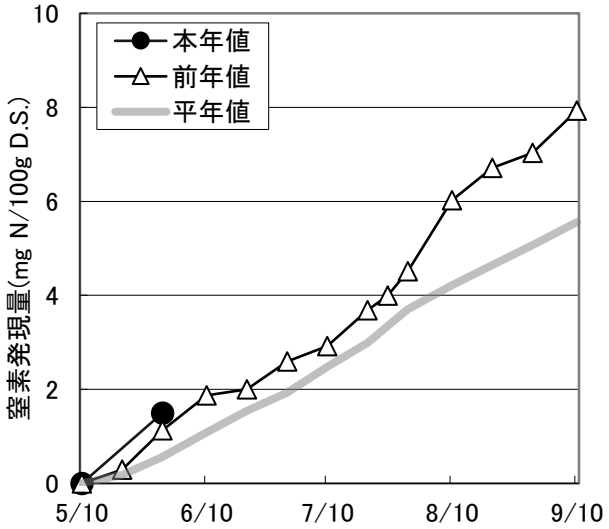
地温（５cm）の推移

地力窒素の発現状況（農総研基盤研究部調査）　　(mgN/100g)

	５月 11 日①	５月 31 日②	地力窒素発現量※1 (③＝②－①)
本年値	2.0	3.5	1.5
前年値	3.5	4.7	1.1
平年値	2.3	2.9	0.6

※１　小数点２ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

※２　化学肥料でＮ成分 3.5kg/10a 施用。平年５月 10 日田植え



地力窒素の発現推移
（初期値を０とした）